

「よく知り、よく備え、正しく恐れよう！」



浅野 基樹*

1. はじめに

(公社)日本技術士会北海道本部(以下、同本部)では、「東日本大震災を教訓とした『北海道の防災』-“教訓と提言”-」(以下、提言書)をとりまとめ、平成25年10月に札幌で開催された第40回日本技術士会全国大会にて発表しました。

寒地土木研究所は同本部と連携・協力を結んでおり、その活動の一環として、私が提言書のとりまとめに参加しましたので内容についてご紹介いたします。

2. 提言書の取りまとめ体制

同本部内では、常設委員会(事業委員会等)、実行委員会(防災委員会、青年技術士交流会)、研究会(北方海域技術研究会、北海道スタンダード研究会等)および道内地方技術士会が活動を行っています。提言書は、これら委員会等の参加の基に「東日本大震災プロジェクト実行委員会」を立ち上げ、防災委員会がエンジン役となりとりまとめたものです。

3. 過去の巨大災害からの教訓

提言書では、東日本大震災は元より他の巨大災害の発生メカニズム、被害および教訓などについて幅広く知見を集めました。例えば、安政東海・安政南海地震、北海道南西沖地震などであり、また今後想定される巨大災害等について、中央防災会議において想定している南海トラフを震源域とする津波災害、北海道の防災会議が発表した「北海道における『新たな津波浸水予測図』」、さらに、北海道特有の課題である激甚化する雪氷災害について紹介しています。

各学術団体等から多くの提言類が発表されていたためそれらの内容についても紹介しています。それらの提言類から抽出される教訓は、「想定外」、「防災と減災」、「自助、共助、公助」、「予防的減災」、「伝承・継承」などでした。提言書においては、「想定外」に備えるための教訓として「釜石の奇跡」における避難3原則(①想定にとらわれるな、②その状況下

で最善を尽くせ、③率先避難者たれ)、「防災と減災」では減災思想(施設と避難)による備え、「自助、共助、公助」では地域コミュニティにおける協働、「予防的減災」では国土交通の代替性の確保、「伝承・継承」では「稲むらの火」や「津波てんでんこ」などについて紹介しています。

4. 提言について

日本技術士会では平成24年3月に公表した「東日本大震災から1年、復興に向けた技術士宣言」の中で「防災・減災に関する科学技術コミュニケーターとして社会に貢献していく」ことを謳っています。

そこで、科学技術が自然災害による被害を未然に防いだ事例として2000年の有珠山噴火に着目し、提言書の趣旨をあらためて検討いたしました。

ご存じのとおり有珠山は過去何回も噴火を繰り返しており、その都度犠牲者(死者)を出しています。しかし、2000年の噴火では犠牲者を出ませんでした。それは、科学者が過去の火山性地震回数の推移等から噴火時期を予測し避難の継続を呼びかけたからに他なりません。

ここから、災害による被害を最小限に食い止めるには、災害について「よく知り、よく備え、正しく恐れる」ことが重要であると言えます。

そこで、提言書では、市民に対し「よく知り、よく備え、正しく恐れよう！」と提言し、本編に市民向けの「地震災害に関するQ&A集」を加えとりまとめたところです。

なお、提言書等は下記URLで公開していますので、機会がありましたらご覧いただければと思います。

<http://www.ipej-hokkaido.jp/bosaiken/pdf/h25teigen.pdf>

<http://www.ipej-hokkaido.jp/bosaiken/pdf/h25Q&A.pdf>